

1月14日、15日の雪かきボランティア活動報告

4月12日から続けている岩手県野田村への支援・交流活動。活動開始から9ヶ月がすぎ、がれきの撤去・側溝の泥上げ・仮設住宅の訪問・のんちゃんねぶたなど様々な活動をしてきました。そんな東日本大震災をきっかけに立ち上がった弘前大学人文学部ボランティアセンターですが、この日から新たな活動が始まりました。今までの活動は主に、津波の被害を受けた被災地への活動が中心でしたが、今度の活動は地元・弘前で雪害に悩む市民を救うことを目的としたボランティアです。

まず、14日について報告します。この日は雪かきボランティア第1回目。雪が降る寒い朝にもかかわらず16名の学生と市民が参加し、道路維持課と連携して弘前市立高杉小学校の通学路の雪かきを手伝いました。作業は高杉小と北辰中のPTAの方・教員・生徒などと一緒に行い、雪が積もった歩道からスコップを使って縁石を掘り出すというものです。僕たちがスコップで縁石を見つけ出し、そこを目印に大きな除雪車が除雪をしていくという流れでした。その距離、実に1.7キロ！時折雪が吹き付け、みんな震えながら「まだ終わらないのか」と言いながらも一生懸命スコップを動かしていました。（個人的には、途中休憩でジュースとパンの差し入れがあったから頑張れた♪）



通学路の除雪



縁石を掘り出し中

参加者は学部・学年も出身地もバラバラ。地元では雪なんて降らないと言っている人もいましたし、大変な力仕事にも関わらず女の人も多く来てくれました。一緒に活動をした方々からは何度も「どうもありがとうございます」と感謝の言葉をいただき、「学生の若い力があると助かる」「こんな活動を自分から進んでするなんて偉い」などと言ってくれる方もいました。僕たちが3~4時間

作業をしたことで、その道を小学生たちが安全に通学することが出来る。そう考えると、かなり大変でしたが、やりがいがありました。

次に15日です。雪かきボランティア2回目です。この日は、午前と午後の部に分かれての活動でした。午前は、城東小学校の通学路、午後は、弘前大学の近くの大成小学校の通学路と学校の敷地の雪かきでした。14日に比べると天気も良く、雪かき日和でした。午前の参加人数は思ったより少なく、7名の参加でした。弘前市立病院前に集合して、そこからバスで城東小学校に行きました。前日は、猛吹雪の中、長距離にわたっての雪かきだったので、やりがいがありましたがとても疲れしました。「今日は昨日より楽かな」なんて思いながら、城東小学校に向かいました。着いてみたら、なんと通学路にほとんど雪がない！！とても奇麗に整備されていました。市と県の方で、除雪してくださったそうです。そのため、あたりを回って危険そうなところを雪かきすることになりましたが、そのようなところはあまりなく、30分程度で、終わってしまいました(笑)。なんか雪かきしたって感じがなくて残念でしたが、安全に小学生が、登校できる環境ができていたので、非常にうれしかったです。

午前は、すぐ終わったのですが、大変だったのは午後でした。ちなみに参加人数は2名でした。3時からの作業でしたが、雪が降り始めて、とても寒い中で雪かきでした。流雪溝に雪をどんどん入れていきましたが、集まった他のボランティアの皆さんの勢いがすごくて、「詰まりそうなのでストップ！！」なんて言われてしまいました。雪が固く大変でしたが、やりがいはとてもあり、いい汗をかくことができました。

「弘前の冬は雪が多くて道も狭いし歩きにくい」「誰かどうにかしてくれないだろうか」ずっとそう思っていました。現状は市役所だけでは手が回らないそうです。不満や文句ばかりを言うだけで、自分では何もしていなかったのではないかと反省しました。市役所とボランティアが協力すると今まで出来なかったことがたくさん出来るようになり、弘前市をもっといい街にすることが出来るのではないかと感じた瞬間でした。

日頃の運動不足解消にでもいいので、みなさんも一度参加してみませんか？

文責：理工学部地球環境学科4年 南部真人
理工学部地球環境学科3年 田上晃央